

5. 経営学部「学位授与の方針」 2025年度以降の入学生より適用

経営学部は、所定の履修細則に従って卒業所要単位124を修得し、次の学修成果が確認できた者に「学士（経営学）」の学位を授与する。

1. 現代をよく生きることについて、キリスト教の教えをふまえた考察ができる。

聖書がもつ今日的意義を理解し、それらをふまえながら、現代社会の中でよく生きることについて、自分の考えを論じることができる。特に、よく生きることと「よきビジネスパーソン」になることを自己の中で関連づけて、社会における自らの役割を認識することができる。

2. 高度な知的活動に必要な汎用的諸技能・能力及び英語力を活用できる。

高度な知的活動の基礎となる汎用的諸技能・能力（コミュニケーション力、論理的・批判的思考力、情報リテラシー、数理リテラシーなど）及び英語力を身につけ、活用することができる。特に、ものごとを論理的・批判的に考え、それを口頭や文章で表現することができる。

3. 課題を発見し、その解決のために学修成果を総合的に活用できる。

地域の課題をはじめとする様々な具体的課題を見つけ、教養教育及び専門分野の学修成果を総合的に活用することでその課題の解決案を提示することができる。特に、経営学の知識を活用することで企業や組織が抱える課題を発見し、社会性と人間性に配慮した実現可能かつ持続可能な解決策を生み出すことができる。

4. ものごとを広く多様な視点から認識し、異なる認識・思考方法や価値観に理解を示すことができる。

自己や世界を歴史・社会・自然など多様な視点から認識し、異なる認識や思考方法、異なる価値観に理解を示すことができる。特に、社会的・文化的な背景の違いによって企業や組織の運営方法に様々な差異が生じることを理解し、それらの多様な思考や行動を受容することができる。

5. 経営学部においては、次の学修成果を示すことができる。

経営学の理論及び経営の実践への学びを通じて、以下の6点について、自ら思考し、自らの意見や提案を他者に正しく伝えることができる。

- (1) 経営学の理論に基づき、実際の企業経営の現場における経営者や管理者の意思決定や戦略的行動を論理的に分析し、合理的かつ効果的な提案を行うことができる。
- (2) 現実の企業や組織では既存の理論や分析枠組みでは十分に対処できない新たな問題が常に発生していることを理解した上で、それらの新規の問題に対しても創造的な解決策を提案することができる。
- (3) 企業が直面する問題に関して、企業の歴史、企業を取り巻く経営環境の変容並びに人間の情緒的側面も十分に考慮して、社会性と持続性を有する解決策を生み出すことができる。
- (4) 企業経営の目的には、当該企業の利益最大化だけではなく社会的責任を果たすことが含まれていることを理解した上で、現実の企業行動を批判的に捉え、よき社会の形成に資する企業行動を提案することができる。
- (5) 財務諸表の分析を通じて企業や組織の財務的な健全性並びに将来性を把握し、持続可能な経営に資する意思決定や財務政策を提案することができる。
- (6) 経営者の戦略的意思決定が企業の財務成果に影響を及ぼすプロセス並びに外部の利害関係者の評価によって企業価値が決まるプロセスを体系的に理解した上で、当該企業と利害関係者とが協働して価値創出できる経営のあり方を提案することができる。